

## ご確認事項に対する回答にあたって

○本日は、9月25日、須田町長からご要請のあった、再稼働判断にあたっての当社への確認事項についてご回答させていただきますが、それに先立ち、私自身の安全に関する考え方や地域の皆さまに対する思いを、最初に述べさせていただきます。

○発電所の立地から半世紀にわたり今日まで女川原子力発電所を運営してこられたのは、女川町をはじめ地域の皆さまのご理解とご支援があったからこそであり、あらためて心から感謝申し上げます。

### (安全への誓い)

○2011年3月11日に発生した東日本大震災は、女川町をはじめとする沿岸部に甚大な被害を及ぼすとともに東京電力福島第一原子力発電所が発災、事故が現実のものとなりました。福島第一事故は、同業者として痛恨の極みであります。

○福島第一事故による不安・不信が増大するなかにあっても、安全確保を大前提としてエネルギーの安全保障、地球環境問題への適合性、経済効率性の観点から、原子力発電にはこれからも果たすべき役割があるのも事実であります。

○私は、再稼働を目指す東北電力の社長として、あのような事故は二度と起こさないという揺るぎない覚悟を持って、安全の高みを追求し信頼の再構築に取り組んでまいります。

○女川2号機の運転再開は、単なる再稼働ではなく、ゼロからプラントを立ち上げた女川1号機建設当時の先人たちの姿に学び、地域との絆を強め、福島第一事故の教訓を反映し、新たに生まれ変わるとの決意を込めて「再出発」と位置付けております。

○当社のOBで1号機の立地に携わった方が、地域の皆さまと原子力の関係性について、いみじくも次のように述べております。

○「原子力というものに多くの人々が抱いている不安、恐れ。その解消のための使命感とエネルギー。それが緊張の連続である。安全論議もあるだろう。技術の確かさもあるだろう。それ以前に信頼というものもある。その緊張の連続がある限り、東北電力女川原子力発電所は永遠に不滅である。」

○私は、ここで言う不安解消のための使命感とエネルギーとは、住民の皆さまとの真摯なコミュニケーションは勿論のこと、作業にあたる者一人ひとりが念頭におかねばならない、安全を守る者としての使命感や責任感も指していると受け止めております。

○そして、この緊張の連続があったからこそ、我々の先輩方は、責任感を持ち続け、発電所敷地レベルを高く設定し、海水ポンプを立坑の中に設置するなど、徹底した安全対策を施し、その結果、震災による事故を回避できたものと考えています。

○地域の皆さまからの信頼を崩してはならないという責任感、その責任感からくるマイプラント意識を守り徹底していく基本姿勢は、今後も当社の安全文化として継承してまいります。また、発電所は安全に、安定した運転を継続してこそ、地域の皆さまから信頼をいただ

けるとの認識に立ち、安全を確保する技術力の向上・研鑽に努めてまいります。

○私は、社長として女川原子力発電所の安全を守るため、地域の皆さまに女川原子力発電所をこれからも安心感をもって受け入れていただくために、安全性および技術力の向上のための経営資源を確実に投入いたします。

○また、社員・協力企業との対話を重ね、社員一人ひとりに対するメッセージを繰り返し発信し、「安全を最優先とする文化」が原子力発電所だけでなく東北電力の企業風土としてしっかり根付くよう、私のリーダーシップのもと全社をあげて最大限の努力を継続してまいります。

### **(地域とともに)**

○女川原子力発電所には、半世紀にわたる長い歴史があります。その創生期に、女川町では原発賛成と反対で町を二分した経緯があり、これを乗り越えてきたからこそその信頼関係が今に引き継がれています。

○東日本大震災では、地先地区の皆さまをはじめとする最大364名の方々が発電所体育館に避難され、決して十分とは言えない環境の中で発電所員と3か月にわたり寝食を共にしました。あれだけの地震・津波があっても、女川原子力発電所は大丈夫だと思っていただけなのは、まぎれもなく長年にわたるお付き合いの中に生まれた信頼の表れであります。

○「守るべきは『信頼』、変えるべきものは『意識』」これは私が日頃から社員に対して伝えているメッセージです。私共の事業活動の基盤となるのは、「信頼」です。特に、原子力においては、地域、社会との信頼関係がより強固でなければなりません。

○発電所への信頼とは、社員一人ひとりが地域の皆さまとのひたむきなコミュニケーションを通じて得た「電力のあの人が言うことなら大丈夫だ」という人としての評価に行きつくものと考えています。そのため、社員・発電所員に対し、東北電力社員である前に一人の良き住民であることを、しっかりと意識付けてまいります。

○かつて、当社初の原子力発電所建設が女川に決定した時、東北電力には立地地域との共存共栄という使命が生まれたのだと考えています。震災を経て新しく生まれ変わり、復興の先のまちづくりへと歩む、今の女川町や石巻市との関係においても、その使命は変わるものではありません。

○女川原子力発電所は地域の皆さまから信頼され、地域に貢献する発電所として再出発いたします。女川町と牡鹿町が原子力発電所を受け入れてくださった経緯と覚悟の重さをあらためて胸に刻み、これからも地域とともに歩んでまいります。

2020年10月29日

東北電力株式会社

取締役社長 社長執行役員

樋口 康二郎